

アイネス総合研究所は 町民の健康寿命延伸をめざした 皆野町の取り組みをサポートしています。

皆野町では、町民の健康寿命の延伸をめざした取り組みを進めています。特に特定健診データを用いた、重大な疾病の予防を重視していますが、データエビデンスに基づいた取り組みを実施できていないという課題を抱えていました。

そこで、データ分析に関する先進技術を研究している株式会社アイネス総合研究所が、環境、福祉、情報を組み合わせた人間社会のwell-beingに関する、学融合的な研究を行っている早稲田大学との共同研究を通じて、皆野町民の特定健診データを分析。健康寿命延伸に向けた取り組みをサポートしています。



分析データの活用が期待できる 主な取り組み。



■ 住民健診勧奨事業

特定健診データとレセプトデータの突合による健診未受診者の特徴の分析。および未受診者のデータ上の特徴を踏まえた施策の検討。



■ フレイル・サルコペニア予防事業

特定健診、後期高齢者健診及び動的評価、筋肉量測定データからフレイルの兆候の有無を統計分析し、判定可能な機械学習モデルを作成。



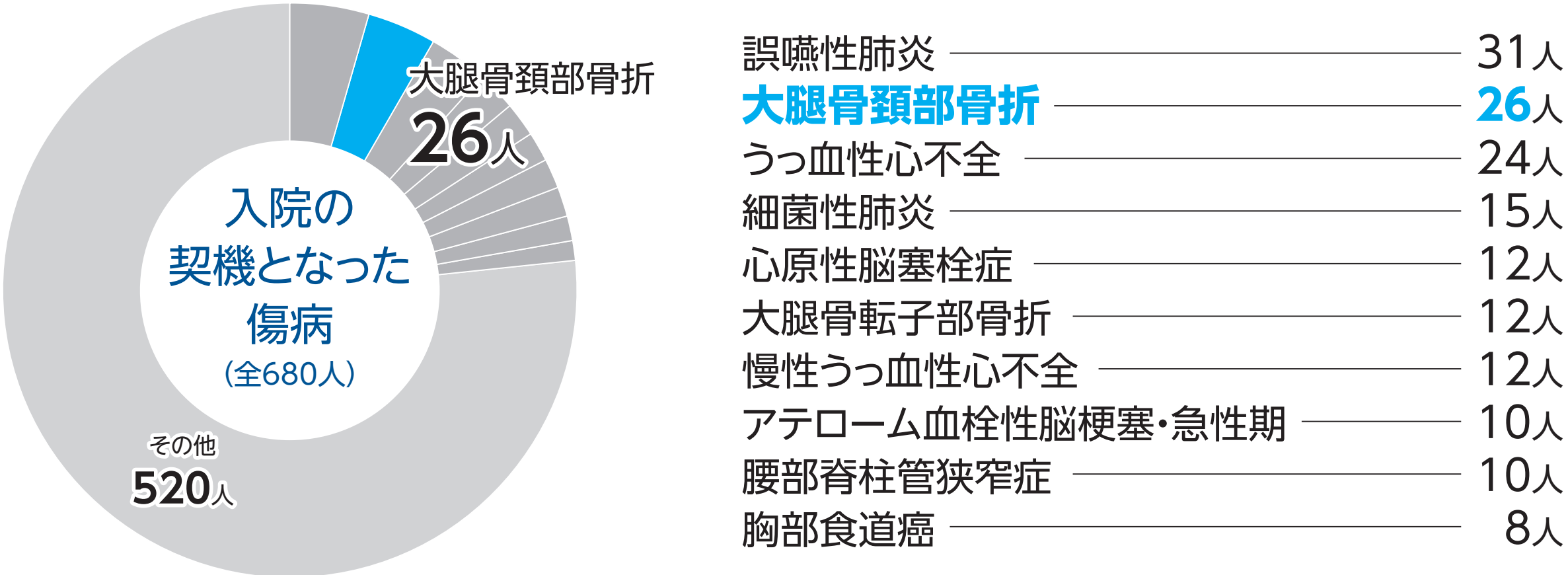
■ 高齢保健・介護予防事業

上記データ分析を基に転倒骨折リスクの有無を統計分析、および判定可能な機械学習モデルを作成。

データ分析により仮説検討をすすめ
予測と予防のシナリオを作成します。

健康診断データの分析結果例

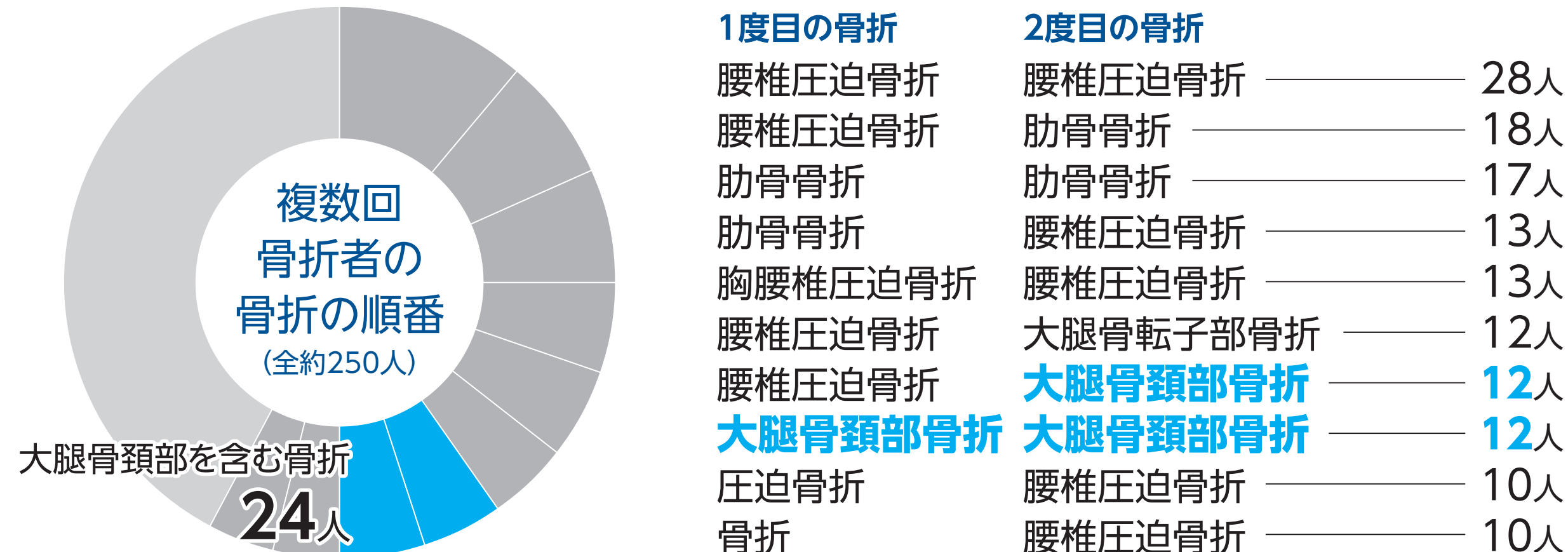
■ 入院期間に関する分析 入院期間が22日以上住民の傷病



大腿骨・腰部以外の骨折は上位に挙がっていない。

別の骨折から大腿骨骨折につながる2次骨折を防げれば、長期入院を減らすことができる可能性がある。

■ 2次骨折者の傾向の分析 複数回骨折者の骨折の順番



骨折を複数回、発症している症例には傾向が見受けられる。

長期入院を避けるため大腿骨骨折に気をつけよう。
圧迫骨折や大腿骨骨折をしていたら2回目に気を付けよう。

データベース化により 高度なデータ管理と更なるデータ活用へ。

